甲状腺外科草子 145

独断のお気に入り映画５：喜劇②

杉野　圭三

日本の喜劇映画の中にも多くの傑作がある。

男はつらいよ（1969，**山田洋次**監督）

御存知の大ヒット作品で 1969 年から 1995 年までに 48 作品が制作された。

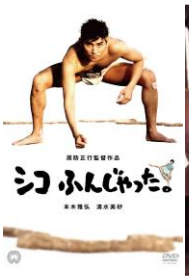
高校生の時に第一作を見たが、満員の客席は大爆笑の渦であった。**光本幸子**のマドンナも初々しく、オイチャンの**森川信**、**三崎千恵子**、**笠智衆**、**佐藤蛾次郎**などの脇役の名演が光っていた。

栗原小巻（第４作）　**吉永小百合**（第９作）**八千草薫**（第 10 作）

マドンナ役の名女優たちも、このシリーズを盛り上げた。この時代、若者たちが集まると「**コマキスト**」、「**サユリスト**」達のたわいもない熱き論戦が始まったものである。

長年、主要キャスト（渥美清、倍賞千恵子、前田吟）固定のまま、マドンナ役の名女優、名脇役たちを上手に使い、マンネリにならず 48 作も制作したのは監督の力量である。

シコふんじゃった（1992，**周防正行**監督）



周防正行監督の大ヒット作。廃部寸前の弱小相撲部を立て直す発想とメンバー選定が大いに受けた。主演の**本木雅弘**も良かったが、**竹中直人**、**田口浩正**らの腹が痛くなるほどの怪演が光った。

周防監督の「**ファンシイダンス**」(1989) や「**Shall we ダンス？**」(1996) も傑作である。

しかし、監督が主演女優と結婚すると恨みを買うものだ。その昔、**谷口千吉**監督も**八千草薫**ファンから随分と恨まれたらしい。

ザ・マジックアワー（2008、**三谷幸喜**監督）

三谷幸喜はいまや日本を代表する大脚本家・監督で、面白くない作品は皆無。この作品は**佐藤浩市**（伝説の殺し屋デラ富樫）、**妻夫木聡**（クラブ支配人）らがマジメそうに演じるほど笑いを誘う。

三谷はテレビドラマも手掛け、「**振り返れば奴がいる**（1993）」は大きな話題となり、続く「**古畑任三郎**（1994）」は三谷の意図通りの軽快・洒脱なドラマとなり、本領発揮の大ヒット作となった。

映画「**笑いの大学**」(2004) は一見、地味な映画だが、**役所広司**、**稲垣吾郎**が二人だけの空間で作り出す笑いに引き込まれる玄人受けする映画である。

その後の「**ステキな金縛り**」(2011)、大河ドラマ「**真田丸**」(2016)、「**鎌倉殿の十三人**」(2022) も期待を裏切らない名作である。

大監督と呼ばれる人は撮影、脚本家、演出家、プロデューサーなど総合的な力量を持つ。出演俳優の選び方にも「**黒澤組**」、「**フォード一家**」など独自の好みが表れるのが面白い。

参考資料：松竹映画「男はつらいよ」公式サイト

（　**一甲状腺外科医の徒然なる随想**　）

2025 年 7 月 16 日